

# 日本経済新聞

9月25日

金曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 03-3270-0251  
〒100-8006 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 06-7639-7111  
名古屋支社 052-243-3311  
西京支社 092-473-3300  
札幌支社 011-281-3211

環境技術で世界に貢献する

## 月島機械

www.tsk-g.co.jp

日経電子版  
https://www.nikkei.com/  
新聞購読のお申し込み  
https://www.nikkei4946.com/  
ご購読・お問い合わせ  
0120-21-4946(7:00-21:00)  
https://support.nikkei.com/

の逆風となった。利用企  
業の貸借対照表(バラン  
スシート)への計上の対  
象外となっていたリース  
契約が加わったことで資  
産も負債も膨らんだ。負  
債を負わずに機械を調達  
していた企業にとっては融

だし・たれ製造のアイビック食品(札幌市)はテイクアウトや通販への参入を目指す地域の飲食店の支援に本腰を入れる。商品開発の資金はインターネット経由のクラウドファンディング(CF)で広く調達し、サッポロドラッグストアの店舗で試験販売する。

## 飲食店のテイクアウト・通販参入

# 商品開発資金、ネット調達

第一弾として札幌の中  
華「布袋」のチャーハン  
の素や欧風カレー「クロ  
ック」のレトルトカレー、  
ハンバーグ専門店「ノー  
スコンチネント」の関連  
商品を商品化する。飲食  
店との交渉やCFの企画  
はトリプルワン(札幌市)  
が担う。

飲食店と共同でアイデ  
アやデザインを企画し、  
CFの出資者に商品を提  
供する「購入型CF」を  
年内に始める。トリプル  
ワンは札幌市による飲食  
店支援のCFでも企画を  
請け負っており、7、8  
月だけで約8億円を集め  
た実績がある。飲食店に

とって経験のない新しい  
販促手法を「軌道に乗れ  
ば来年にも金道に広げたい」(同社の伊藤翔太社  
長)考えた。

コロナウイルス禍でO.E  
M(相手先ブランドによ  
る生産)の物販商品の開  
発に力を入れてきた。試  
作用キッチンを貸し出  
し、同社の担当者と店側  
が二人三脚で店の味を再  
現。調味料や絵葉、レト  
ルト食品まで幅広く試作  
して販促まで面倒を見る  
「丸ごと支援」が特徴だ。  
数日で開発でき、小ロッ  
トから対応してきた。

商品の開発だけでなく、パッケージデザイン  
を引き受けたり、テイク  
アウトや通販の情報をま  
とめたガイドブックを制  
作してホームページで公  
開したりして顧客の要望  
に細かく応じてきた。

商品は全国的なブームとな  
っており、事業継続に悩  
む店主にアピールする。  
北海道は2月末に新型  
コロナで外出自粛が呼び  
かけられ、政府の緊急事  
態宣言が解かれたのも遅  
かった。売り上げを補う  
ため物販に参入したい飲  
食店は多かったが、独力  
で味が良く長期保管に耐  
えられる商品を作るのは  
ハードルが高かった。

(向野峻)



サッポロドラッグストアの店舗で試験販売する(札幌市内のサッポロドラッグストア)

## アイビック食品、一貫支援強化

# 試験販売、サッポロ店頭で

飲食店がテイクアウト  
や通販に参入する際には  
商品の開発コストだけで  
なく、販路を持たない地  
場の店には知名度が壁と  
なってきた。共同開発し  
た商品は宣伝も兼ねて一  
定期間、サッポロドラッ  
グストアの店舗で販売  
し、知名度を高めた後に  
それぞれの飲食店が店頭  
やインターネットで販売  
できる。飲食店が同意す  
れば札幌のキフトシヨッ  
プやサッポロ店舗での継  
続販売も可能という。  
アイビック食品は新型

サッポロドラッグストアの店舗で試験販売する(札幌市内のサッポロドラッグストア)